

中部大会速報

石川県 北陸学院 高校

会場全体が作品に

北陸学院に上演後インタビュー

脚本について

脚本を選んだ理由としては、北陸学院のコーチ（井口先生）が脚本を書き、精神的な引きこもりが外に出ていく話を書きたいため、人がそろってからやりたかった。

ここだけの話

本番中でもハプニングがあり、一番最初のラジカセが鳴らなかった。この原因は、葛谷が本番前にラジカセの音量を下げていたことが原因だった。

役者について

キャスト決めは公募し、

その後オーディションをして決定した。

オーディションの結果、希望の役を出来なかった人や、思いがけない役になった人もいた。葛谷さんは名前が一緒だったので前から決まっていた。

舞台装置について

工夫したところはパンチカーペットに人を乗せて運ぶことだった。しかし、長い期間練習できなかったため、アドリブで乗りきった。

製作時間

夏の大会の時とキャストを一部変更をしているので、一からやり直した。二か月弱かかり、テスト期間や修学旅行もあり、出来ないう時もあったことから、死ぬ気で稽古したのは一か月だった。



落語をする葛谷

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月24日

作品名

私立まほろば高等学校落語研究同好会の輝ける歴史



美樹ちゃんドッキリ大作戦のワンシーン

音響・照明について

音響の苦労した点については、タイミングが重要で、藤田君が怒る場面では、機をたたくことと音を合わせるのが難しかった。

最後に一言

（演出の北村さん）作品上、お客さんがシラけたら、お客さんがノッてくれなかったらどうしようもない話なので、お客さんがいろんなところで笑ってくれたり、拍手してくれたりし、いろいろな意味でお客さんと一緒に作った作品なのではないかと思う。

（音響の齋藤さん）音響と照明が協力することができ、練習は限られた時間の中でスタッフとキャストの間でやりとりがあったが、それが本番では伝えることができて良かった。

（担当）西谷、堀田、北野、長沢